



中間貯蔵事業情報センター

●トピックス●

## 中間貯蔵事業情報センターが 3月15日に開館しました！

福島の復興・環境再生に関する情報を、没入感のある映像等を用いて、わかりやすく発信します。

中間貯蔵事業情報センターがJR常磐線大野駅からすぐ近くにある大熊町産業交流施設「CREVA おおくま」1階の一角にオープンしました。大野駅西口には、「CREVA おおくま」と「クマSUN テラス」があり広場のほか、飲食店、物販店、コンビニなどが軒を連ね、賑わいを見せています。

中間貯蔵事業情報センターは、これまで同町内で運営していた「中間貯蔵工事情報センター」の後を継ぐものであり、施設規模の拡大に伴い展示内容も大幅に拡充しました。中間貯蔵施設の建設を受け入れ、大切な土地をご提供いただいた大熊町・双葉町の方々の思いや、中間貯蔵事業の進捗、除去土壌等の復興再生利用及び県外最終処分をはじめとする福島の復興・環境再生の取組等、幅広く情報を発信します。

今回は、一部ではありますが、館内で見学できる内容を紹介します。

床面の一部と壁一面をスクリーンとした、バーチャルシアター。こちらでは、立ち入りが制限されている中間貯蔵施設の様々な場所の現在や震災以前の映像を、実際にその場にいるかのように体験できるコーナーになっています。津波で被害を受けたままの姿が残る「水産種苗研究所」や、震災当日に入居者全員が避難を余儀なくされた特別養護老人ホーム



バーチャルシアター

「サンライトおおくま」の施設の内部の様子など、通常の現地見学会などでは立ち入ることのできない場所の映像も用意しています。現在は7種類の映像を観ることができますが、今後も順次、中間貯蔵施設区域内の様々な場所を撮影し、追加していく予定です。

また、地元の方々の思いに着目したコーナーも設置しています。中間貯蔵施設区域内に住まわれていた方から頂いた当時の大切な思い出の写真を地図上にちりばめ、自由に見ることができるほか、インタビュー映像もあります。

中間貯蔵事業情報センターを発着地とした現地見学にも参加することができます（事前予約制）。見学会では、実際に中間貯蔵施設区域に入り、スタッフが各施設をご案内します。定期的な見学会の開催や、団体で来られる方には個別のご要望に応じて見学会を行っています。HPでも見学会の予約受付案内を行っておりますので、ぜひご覧ください。

皆様のご来館をお待ちしております！

## ● 中間貯蔵事業情報センターの運営にあたって

中間貯蔵施設に保管されている除去土壌等の 2045 年 3 月までの福島県外での最終処分・再生利用に向け、中間貯蔵事業情報センターから情報を発信し、全国的な理解醸成に貢献できるよう頑張っています。

JESCO 情報センター長 安納 康栄



情報センター長(右から3番目)と運営スタッフがおそろいのユニフォームでお待ちしています。

## ● 「除染土処分に関する学生ワークショップ」

### 投稿者

福島大学 経済経営学類4年 天野 俊  
東北大学 経済学部2年 山田 歩

2024年9月に福島大学の学生が中心となって開催した「除染土処分に関する学生ワークショップ」。参加した全国12大学29名の学生たちは、除去土壌等に関する様々な問題を自分事として捉え、ワークショップ後も主体的に活動しました。中でも、「カードゲームで除染土について学ぶことができるオンラインワークショップ」の開発に取り組んだ学生のグループが、「いっしょに考える『福島、その先の環境へ。』

チャレンジ・アワード2024」にて、環境大臣賞(大学生の部)を受賞しました。メンバーの一人である東北大学2年生の山田歩さんは、『今後はこのワークショップを改良し、オンライン・オフライン両方での実施や一般の方々への公開に向けて活動していきたいです。』と意気込んでおり、次年度以降も除去土壌等に関する様々な問題への学生による挑戦が引き継がれていくことに期待します。



チャレンジ・アワード2024授賞式

## ● 1月31日に第10回知のネットワーク会合を開催しました



環境放射能除染学会第21回講演会との共催企画にて、第10回減容化・再生利用と復興を考える知のネットワーク会合を開催しました。今回の会合では、「戦略目標から次のス

テップへ」と題し、環境省、JESCO、国立環境研究所、東京電力ホールディングス株式会社の担当者や研究者からそれぞれの取組・研究について発表がありました。

また、それぞれの発表後、環境放射能除染学会理事長である大迫先生の進行のもとで各講演者を交えて総合討議を行いました。討議の中では、国が2024年度末までに取りまとめる予定の戦略目標の中でこれまで積み重ねてきた技術開発の積み重ねを今後どのように社会に実装していくのか、さらに社会へ実装していく上でどのような課題があるのかについて様々な議論が交わされました。発表資料の一部はJESCOのHPでも公開しております。



ホームページは  
こちら

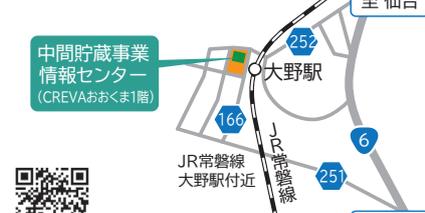
## 情報センターだより

### ▼見学者アンケート

- サンライトおおくまで震災直後の手付かずのままの施設があり胸が痛くなりました。当時あの場所にいた人達がどんな思いで避難するまでいたのか想像もできないくらい慌ただしい様子がうかがえたのを感じました。/ 40代 いわき市
- パネルで見るのと、実際の見学とでは、意識付けが大きく異なると思う。学校などで広く実施するのは賛否あると思うが、実際に見る機会の拡充は大いに必要だと感じる。/ 40代 神奈川県
- 安全性を説明するだけでなく、どのような目的でどんな危険性があるのかを分かりやすく説明し、あらゆる可能性、危険性を想定した実験を行い、その結果も一緒に提示することで信用が得られていくのだと思います。/ 20代 東京都

### ▼情報センター見学のご案内

中間貯蔵事業情報センターは無料で見学できます。中間貯蔵施設見学は事前に予約が必要となります。



福島県双葉郡大熊町大字下野上字大野 116 番 5  
開館時間▶ 9:00 ~ 17:00 (最終入館 16:30)  
休 館 日▶ 毎週火曜日(祝日の場合は翌平日)、  
年末年始(12/29 ~ 1/3)

## 編集後記



● 雪の日の土壌貯蔵施設(大熊3工区)  
3月に季節外れの大雪が降りました。区域内も一面雪景色となり、冬らしさを感じられる一日となりました。